

琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議

かわら版

—第8号—

事務局：京都府文化環境部公営企画課
TEL：075-414-4373 FAX：075-414-5470
e-mail：koei@pref.kyoto.lg.jp
～★ 平成25年10月発行 ★～

琵琶湖・淀川流域図

— 府県界
— 流域界
— 上水供給界



構成団体

- ・三重県地域連携部地域支援課
TEL:059-224-2420
 - ・滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
TEL:077-528-3460
 - ・京都府文化環境部公営企画課
TEL:075-414-4373
 - ・大阪府政策企画部企画室事業調整課
TEL:06-6944-6118
 - ・兵庫県企画県民部エネルギー対策課
TEL:078-362-3057
 - ・奈良県地域振興部地域政策課
TEL:0742-27-8489
- [オブザーバー]
- ・(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構
TEL:06-6920-3035

■「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」とは■

平成15年3月に京都市等で開催された『第3回世界水フォーラム』を契機に、流域6府県（三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県）が、水環境保全のネットワークを構築するため「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」を設立しました。

■「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」の活動■

水質や生態系などの水環境保全には、流域での一体的な取り組みが必要であることから、「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」は、府県が連携し、住民・NPOなど多様な主体との協働のもとで進めていくこととしています。

※かわら版では、構成団体における水環境保全に関する取り組みを紹介します。

— URL：<http://www.pref.kyoto.jp/kyonomizu/10400031.html> —

■三重県■ 農地・水環境保全向上への取組

三重県伊賀市川西地区は、木津川の支流である柘植川沿いに位置し、伊賀地区でも有数の農業地帯として、米（コシヒカリ）、麦、大豆などを栽培しています。そのほとんどがほ場整備がされていますが、整備後半世紀近く経過し、水路、農道、ため池等の農業用施設の老朽化が進んでいることから、集落全体で、その維持管理と補修に取り組んでいます。

また、当地区の水路にはシジミが多く生息していることから、その生息環境の保全活動として、「有機肥料の使用による水質保全」や「田植え時に水路へ濁水を流さない取組」、「生き物のための水路への冬期通水」などに取り組んでいます。

このように、地域ぐるみで生態系保全活動に取り組んでいた結果、水路に生息するシジミの数が増えていることが確認されています。

さらに、地域の子どもたちとのシジミの観察会を実施したり、地元の小学校で環境学習を実施したり、身近な地域の環境を守る大切さを伝えています。

そのほか、農村環境が将来にわたり、良好な状態で保全管理され、質的な向上が図れるよう地域ぐるみで共同作業に取り組むとともに、農道沿いにはあじさいを植栽するなど景観保全にも積極的に取り組んでいます。



溝掘り共同作業



草刈り共同作業



しじみの観察



地域美化共同作業

■滋賀県■ みんなの情報交流サイト「マザーレイクフォーラム」を開設

琵琶湖の環境保全活動に関する情報を発信・交換する場として、みんなの情報交流サイト「マザーレイクフォーラム」を、滋賀県も一員として参画する「マザーレイクフォーラム運営委員会」（NPO、研究者、事業者、農林漁業者、滋賀県等参画）が開設しました。

【サイトの特徴】

滋賀県内や琵琶湖淀川流域で活動する環境保全に関わるNPO等の団体や個人をはじめ、琵琶湖に関心をお持ちの方が誰でも自由に情報発信、情報収集していただけるサイトです。

当サイトの「みんなの情報交換ページ」に情報が書き込まれると、メンバー登録をしている団体や個人全員にメールで自動的に情報が発信され、また、他の団体等が情報を書き込めば、自動的にメール受信されるため、常に最新の情報を入手することができます。

双方向の情報プラットフォームとしての特徴を有するサイトですので、まずはメンバー登録をして、情報発信、情報収集にご活用ください！

【サイトの目的】

環境保全に関わるNPO、研究者、企業、農林漁業者、行政、自治会、サークル、個人等、様々な団体・個人が交流し、情報を共有することにより、分野を超えたつながりが生まれ、琵琶湖を守る取組が広がっていくようなサイトを目指しています。

【メンバー登録について】

団体・個人のどちらでもメンバー登録はできます。サイトのトップページ（<http://mlf.shiga.jp/>）から簡単に登録できますので、メンバー登録をしてどんどん情報発信・交流をしましょう！



みんなの情報交流サイト「マザーレイクフォーラム」
トップページ（ここからメンバー登録できます）

■京都府■ 京都府水循環プラットフォームを創設

～キックオフイベント「設立記念シンポジウム」を開催～

府内における上下水道を通じた水循環施策を推進するため、“京都府水循環プラットフォーム”を創設し、9月6日（金）にキックオフイベントとして、設立記念シンポジウムを開催しました。

京都府水循環プラットフォームは、府及び府内上下水道事業者等が抱える諸課題の解決に向け、広範な分野の有識者等を登録し、技術支援等アドバイスを受ける仕組みとネットワークを構築することを目的としております。

京都・水循環人材バンク

- ・上下水道等水循環に係わる広範な分野の有識者を人材バンクへ登録
- ・上下水道事業者等の依頼に基づき、有識者が課題に対し専門家視点でアドバイス

水の情報館

- ・水に関わる最新の情報・知見を収集・保存し、発信
- ・有識者からのアドバイス情報を共有

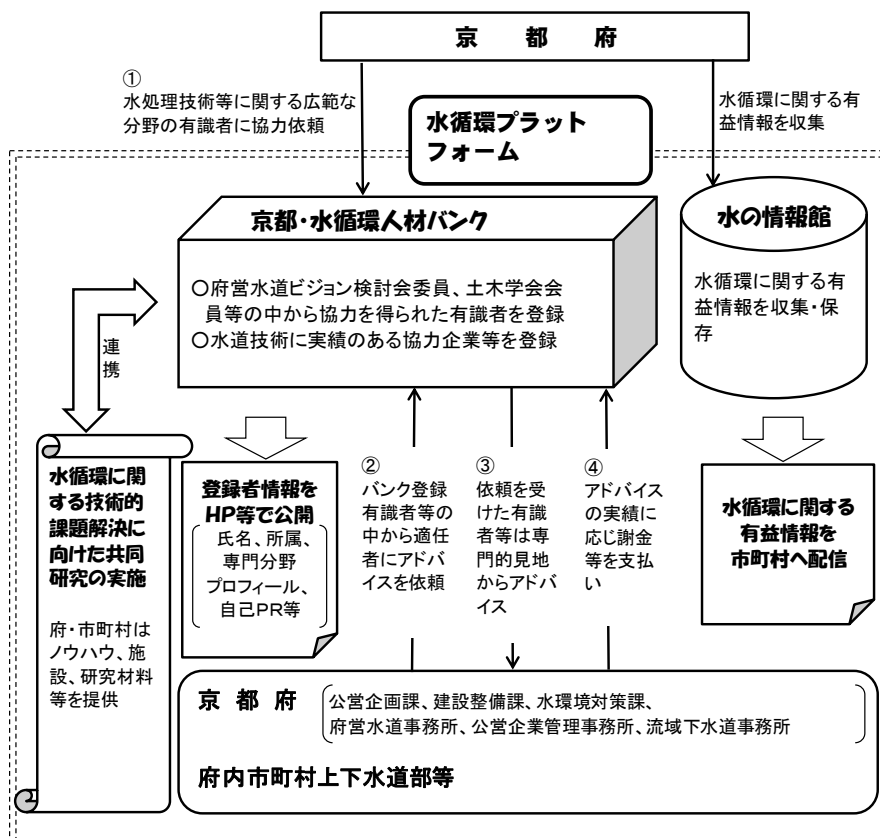
共同研究

- ・水循環に関する課題の解決に向けた会員等による共同研究の実施

設立記念シンポジウムにおいては、京都・水循環人材バンク登録有識者の講演やパネルディスカッションを行い、ネットワーク拡大に向け、連携方法等について意見交換を行いました。



京都府水循環プラットフォームイメージ図



■大阪府■ 地域の豊かな水辺環境の保全に向けた取組

人々が親しみ憩えるような豊かな水辺環境は、地域に暮らす人々にとっての「誇り」であり、次世代へ引き継いでいくべき大切な「財産」です。

そのような考えの下、自分たちの手で地域の水辺環境を守っていこうと、大阪府下でも行政が行う取組以外に、様々な団体等が取組をされており、成果をあげておられます。

ここでは、国土交通省の「水資源功績者表彰」を近年受賞された、府下の2つの団体の取組についてご紹介します。

① 「狭山池まつり実行委員会」(大阪狭山市) (平成24年度 受賞)

「狭山池まつり実行委員会」は、ふるさとの誇りである「狭山池」の自然環境等を、いつまでも美しいまま次世代へ引き継ぐため、市民・団体・事業者・行政等が英知を結集し協働していこうと、2001年11月に設立されました。

同団体は、地元の学生等と協力しながら、狭山池周辺の清掃活動を「狭山池クリーンアクション」として毎年13回ほど実施しているほか、狭山池に流入した木・竹材をチップ化し樹木の堆肥等に活用する取組や、植物の水生栽培や二枚貝の育成による水質浄化実験等を行うなど、環境保全意識の普及啓発や狭山池の環境保全に、大きく貢献しておられます。

② 「たかつき環境市民会議 水環境保全グループ」(高槻市) (平成25年度 受賞)

「たかつき環境市民会議 水環境保全グループ」は、多様な生物が息できるようにすると共に、人々が親しみ憩えるような豊かな水辺環境を取り戻し、それを次世代に引き継いでいくことを目指して、2003年に結成されました。

同団体は、「憩いと潤いに恵まれた都市 高槻」を目指し、雨水利用の促進に向けた取組を行ってきました。食品メーカーから提供を受けた使用済みの樹脂製ドラム缶に蛇口・水面計・給排水管等を加え、雨水貯槽として利用できるように加工した「たかつき天水くん」を開発し、市の広報紙等で募った設置希望者に安価で提供しています。2007年から普及を進め、これまでの6年間で計390台を設置するなど、大切な資源として雨水を利用することで、環境保全に大きく貢献しておられます。



「狭山池クリーンアクション」の様子
①「狭山池まつり実行委員会」(大阪狭山市)



「たかつき天水くん」製作の様子
②「たかつき環境市民会議 水環境保全グループ」(高槻市)

■兵庫県■ 尼崎21世紀の森について

兵庫県では、平成13年度に「尼崎21世紀の森構想」を策定し、尼崎臨海部を「森と水と人が共生する環境創造のまち」にすべく様々な施策を実施しています。

「尼崎21世紀の森づくり」のプロジェクトについていくつか紹介します。

1. 尼崎の森中央緑地（29ha）

① 参画と協働の森づくり

尼崎21世紀の森づくりの拠点となり都市公園と港湾緑地により形成される尼崎の森中央緑地（以下「中央緑地」）の整備を進めています。この中央緑地の整備は、県民の参画と協働により行っています。県民の方に中央緑地に植樹する樹木の種の採取から苗木の育成、植樹、除草等の管理まで行ってもらっています。この壮大な森づくりには、県民はもとより、最近では、企業の参画も増えてきています。



県民による植樹

② 苗木の里親

中央緑地のコンセプトである「地域が育てる森」に基づき「苗木の里親」制度を展開しています。これは、中央緑地に植樹する苗木を一定の大きさに成長するまで自宅や企業敷地で預かり育てていただき、植樹していただく制度です。これまで約3,500名以上の県民、10団体（企業・学校等）に苗木の里親になっていただいています。平成24年12月から苗木の里帰りをはじめており、植樹を開始しています。



苗木

2. 尼崎運河まちづくり

① 運河まちづくり

尼崎臨海部を賑わいある地域にしていくため、尼崎運河を核としたまちづくりを進めています。県民に運河をもっと良く知ってもらうため、NPO法人が主体となり水面を利用した運河クルージングやパドルボートの体験活動を行っています。毎年秋には「うんぱく 尼崎運河博覧会」を開催しています。



パドルボートの体験

② 水質浄化施設

運河の水質浄化に加え環境学習や運河利活用の拠点となる「水質浄化施設」を整備しました。水質浄化施設は、毎分約50Lの水を施設に引き込み、貝と藻・水草の力で浄化しています。昨年度末には、ビジターセンターがオープンしました。



水質浄化施設

■奈良県■ 水の週間 親子ダム見学会開催 ～比奈知ダム・布目ダム～

奈良県では、毎年8月第1週の「水の週間」のイベントとして、奈良県民の皆様を対象に、水資源機構と共催でダム見学会を開催しています。

今年は8月1日（木）、比奈知ダム、布目ダムにて開催。19名の方が参加されました。

近鉄大和八木駅に集合後、まずは比奈知ダムへ。比奈知ダム管理所の会議室で説明のあと、操作室を見学し、ダムを一望できる展望塔からの水を湛えたダム湖面の眺めを体験しました。最後にバスで移動し、ダム直下の減勢池を見学しました。

布目ダムでは、会議室での説明のあとにダム内部の見学に向かいました。内部は気温が15℃前後に保たれており、寒いくらいです。外が暑いだけに、参加者の皆さんからは「涼しい！」との声が続々と上がりました。長い階段を歩いて外に出たところは、ダムの全体像が一望できる絶好の撮影スポットで、皆さん思い思いに記念撮影をしていました。最後に毎年恒例となった「利き水」を行いました。利き水とは水の飲み比べのことです。市販のミネラルウォーターの水と、参加者の方々も普段口にしてしている水道水などを飲み比べ、違いを当てるクイズなどで盛り上がりました。

参加者の方々からは様々な質問が飛び出し、ダムについて高い関心を持って見学会に参加して頂いたことがうかがえました。質問に対しては、所長を始め管理所の皆さんの丁寧な説明で、参加者の方々にはダムや水についての理解をより深めて頂いたことと思います。この見学会が、水の大切さを身近に感じ、水のことを考えるきっかけになればと思います。

【比奈知ダム】



比奈知ダム堤体



説明の様子



展望塔からの眺め

【布目ダム】



布目ダム堤体



長い通路



利き水の様子

当日の様子は、奈良県地域振興部地域政策課のホームページにも掲載しています。

(<http://www.pref.nara.jp/28978.htm>)

■ 公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構 ■ 水質保全研究助成

公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構（以下、BYQ）では、「飲める水 遊べる水 辺 次世代に」をテーマに、自主研究や研究助成、広報啓発事業などを通して、琵琶湖・淀川流域とその給水区域の水質保全活動を行っています。今回はこれらの取組の中から、水質保全研究助成事業について紹介します。

この事業は、BYQが実施している研究とともに、研究機関や大学等の研究に助成を行い、両者が相まって琵琶湖・淀川流域の水質保全の課題解明や対策手法の確立に資することを目的に、平成21年度から実施しているものです。

平成25年度は

- 1) 水系水質管理のための有機性汚濁指標とその代表性に関する研究
- 2) 琵琶湖・淀川流域の水質・底質中の微量有害汚染物質の挙動把握および分析手法の確立等に関する研究
- 3) 琵琶湖・淀川流域における大腸菌などの病原性微生物の動態把握と削減技術に関する研究

をテーマとし、平成24年度からの継続2件に新規8件を加えた計10件を採択し、現在それぞれの研究機関や大学で研究を進めてもらっており、来年の3月には行政、企業等にも参加いただいて成果報告会を開催し、幅広く研究成果の共有を図る予定です。なお、平成24年度までの成果についてはBYQのホームページ (<http://www.byq.or.jp>) で閲覧できます。

この他、BYQでは琵琶湖・淀川流域の小・中学生の水質保全活動を対象とした助成制度を平成26年度から実施できるよう準備を進めており、今後ともこうした取り組みにより住民の皆さんや行政とともに潤いのある流域社会を形成していきたいと考えています。



【平成24年度 成果報告会の様子】